

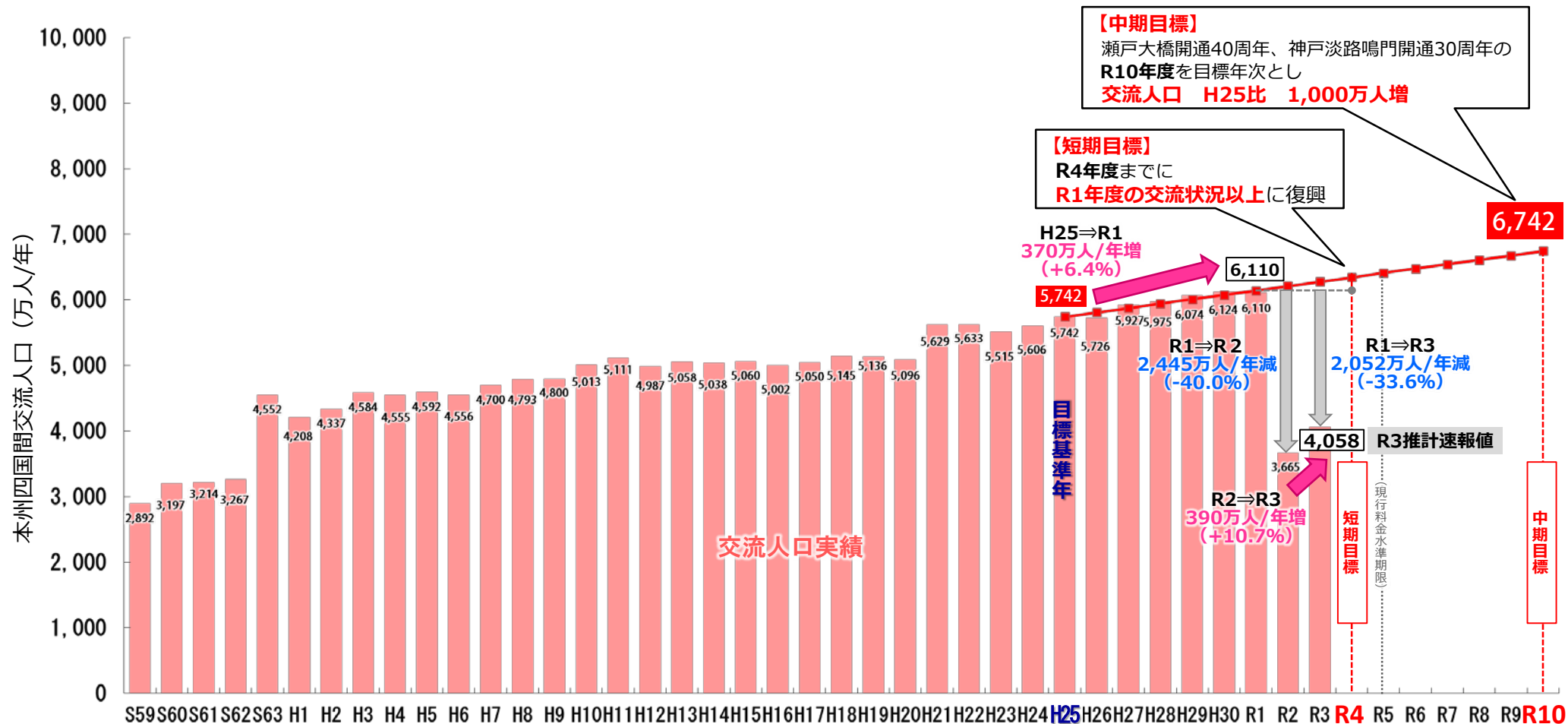
資 料 4

～本四・中四国内道路の交通状況～

目標に対する本州四国間の交流人口の推移

- コロナ前**(R1年度)までの本四間交流人口の実績は、H25年度比 **約370万人（約6%）増**
- R2年度の実績は**、R1年度と比較して**コロナの影響により大幅減少**
- R3年度の実績は**、R2年度比 **約390万人（約11%）増**

◆交流人口の実績の推移



出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」等より作成

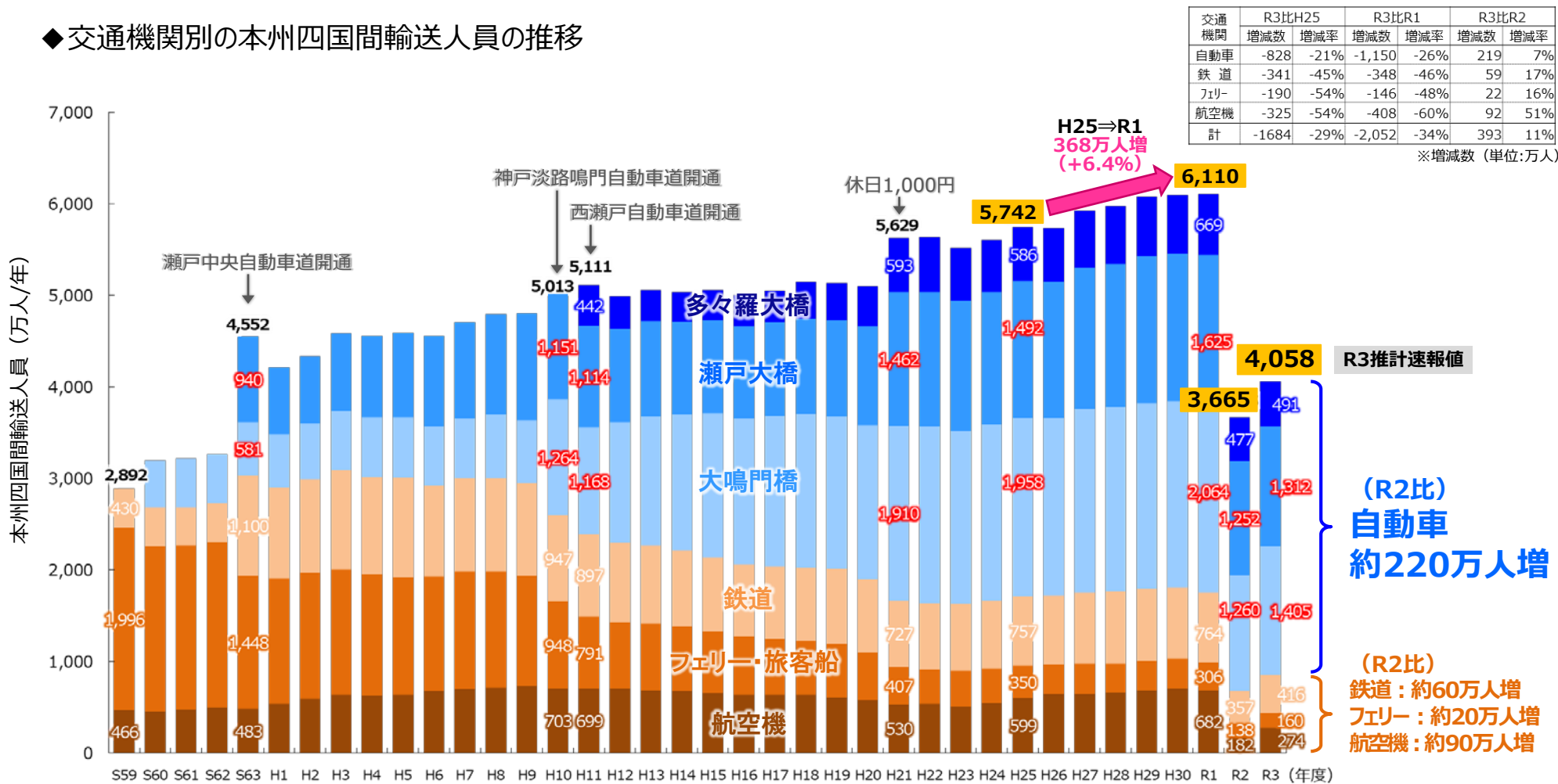
注; R3年度の交流人口は、推計速報値であり、今後公表されるデータを用いて更新する (R4.5時点)

交通機関別の交流人口の推移



- R3年度は、H25年度比 **自動車:約830万人減（20%減）**、**航空機:約330万人減（54%減）**、**鉄道:約340万人減（45%減）**、**フェリー:約190万人減（54%減）**
- また、R2年度に比べ回復傾向がみられ、R2年度比 **自動車:約220万人増（7%増）**、**航空機:約90万人増（51%増）**、**鉄道:約60万人増（17%増）**、**フェリー:約20万人増（16%増）**

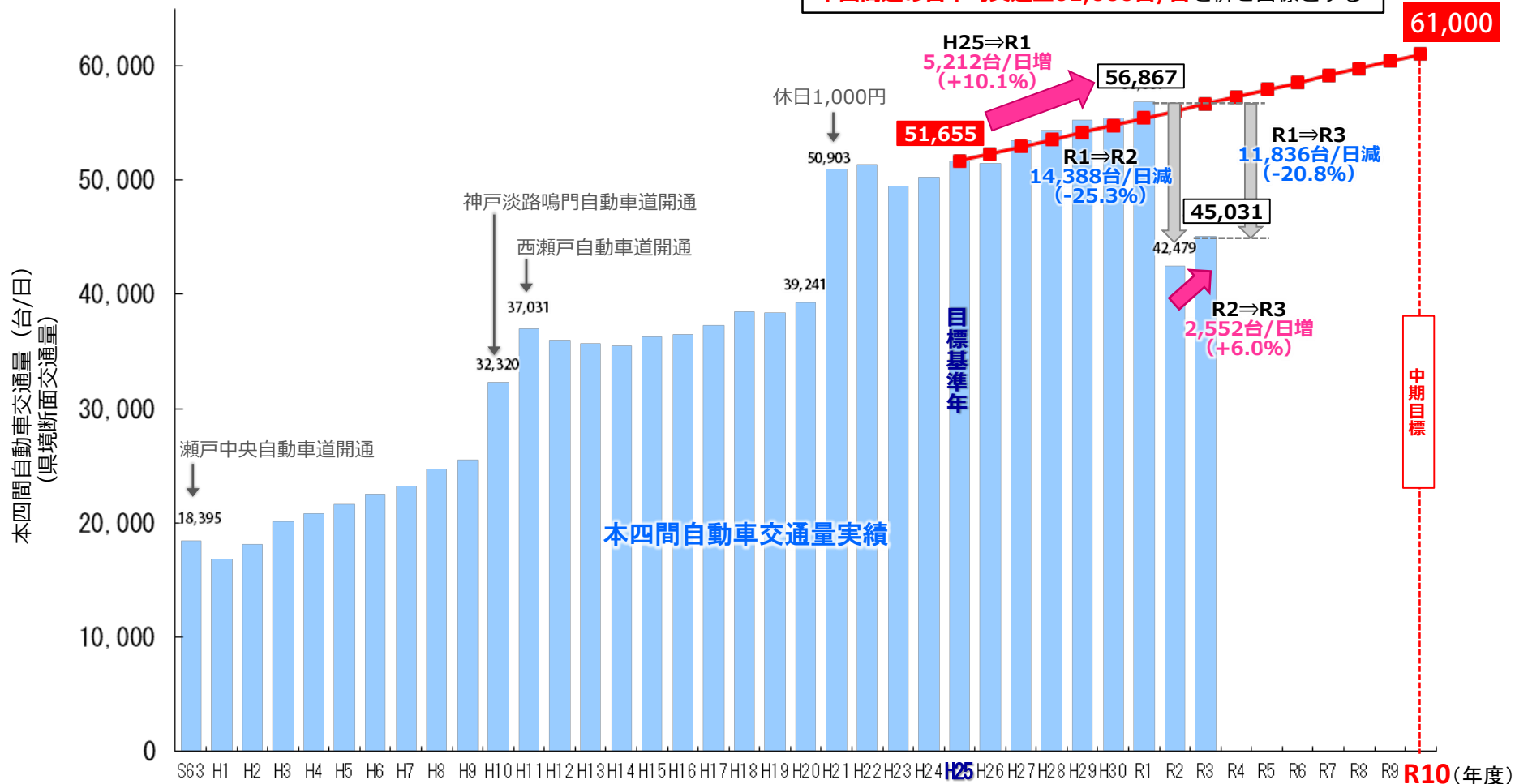
◆交通機関別の本州四国間輸送人員の推移



目標に対する交通量の推移（本四間自動車交通量（県断面交通量））

- コロナ前**(R1年度)までの本四間自動車交通量の実績は、H25年度比 **約5,200台/日（約10%）増**
- R2年度の実績は、R1年度と比較してコロナの影響により大幅減少**
- R3年度の実績は、R2年度比 約2,600台/日（約6%）増**

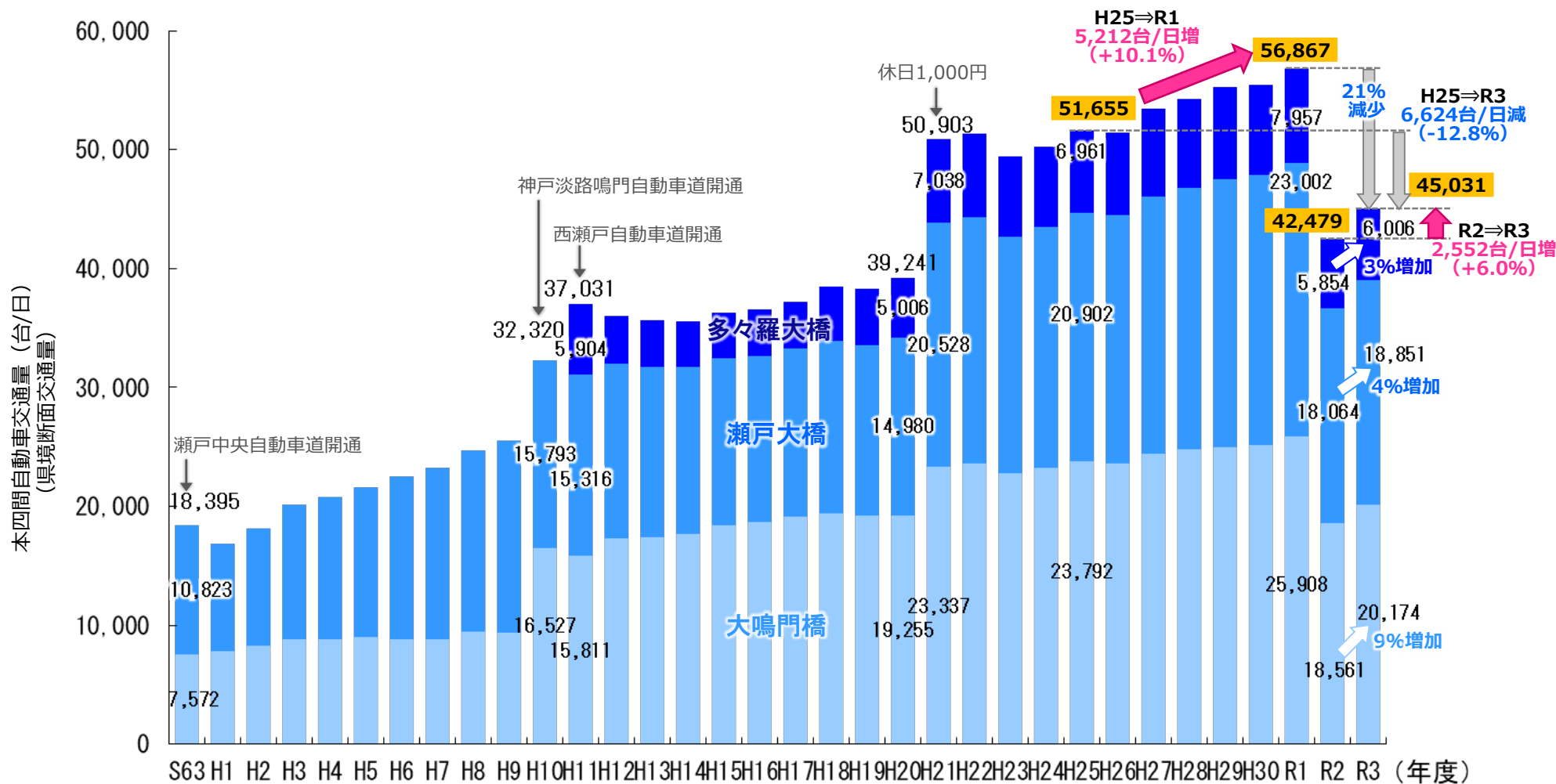
◆本州四国間の自動車交通量の推移



交通量の推移（本四間自動車交通量（県断面交通量））

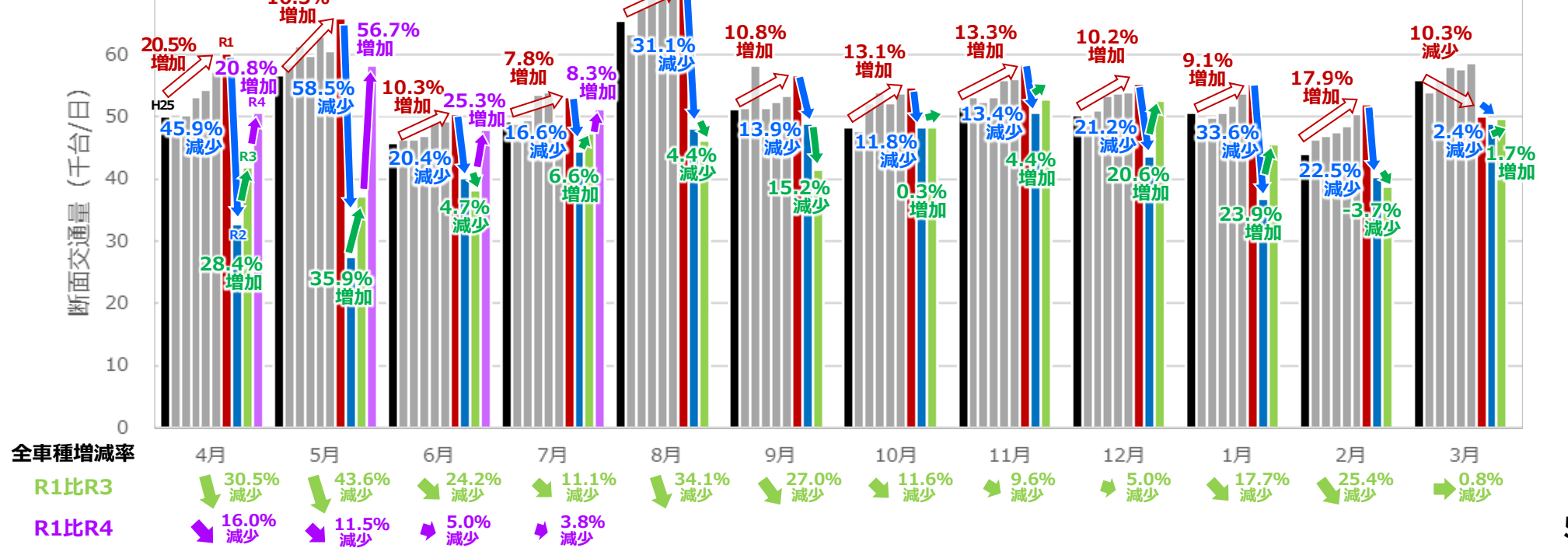
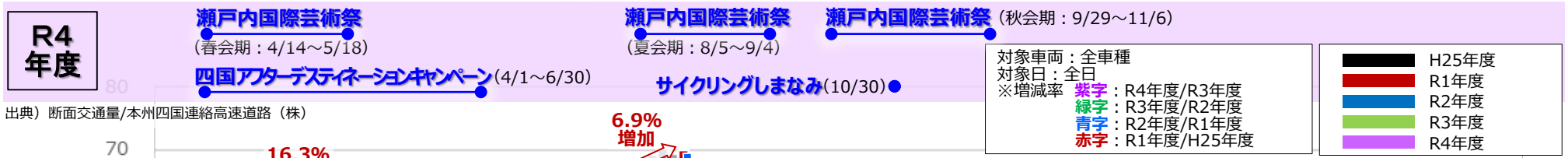
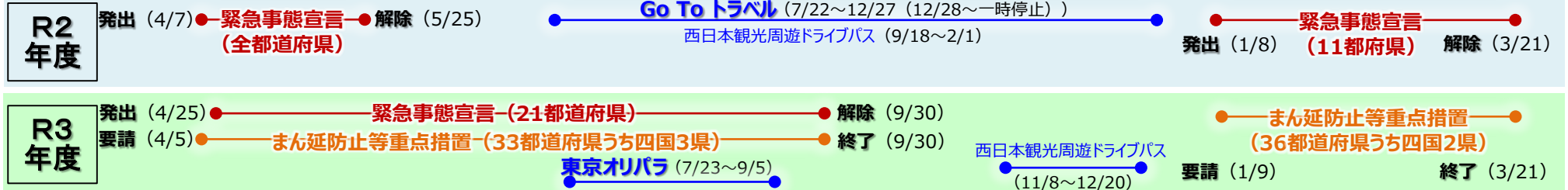
- R3年度の本四間自動車交通量は、H25年度比 **約13%減**（約51,700台/日⇒約45,000台/日）R1年度比 **約21%減**
- また、R2年度に比べ、**回復傾向**が見られ、R2年度比 **約6%増**（神戸淡路鳴門9%増、瀬戸中央4%増、西瀬戸3%増）

◆本州四国間の自動車交通量の推移



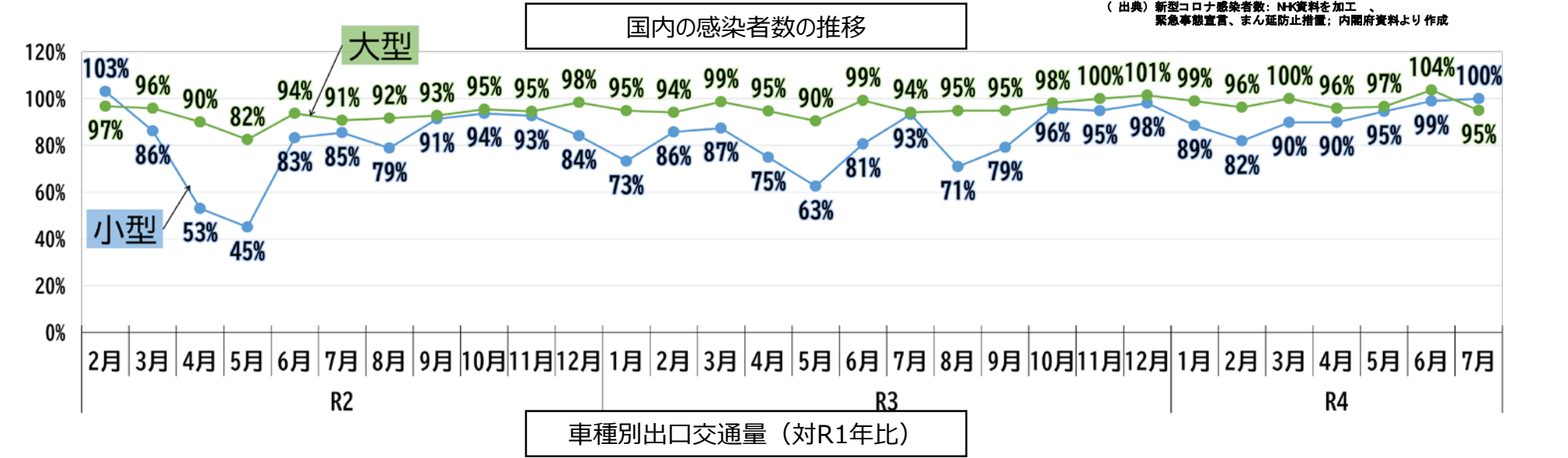
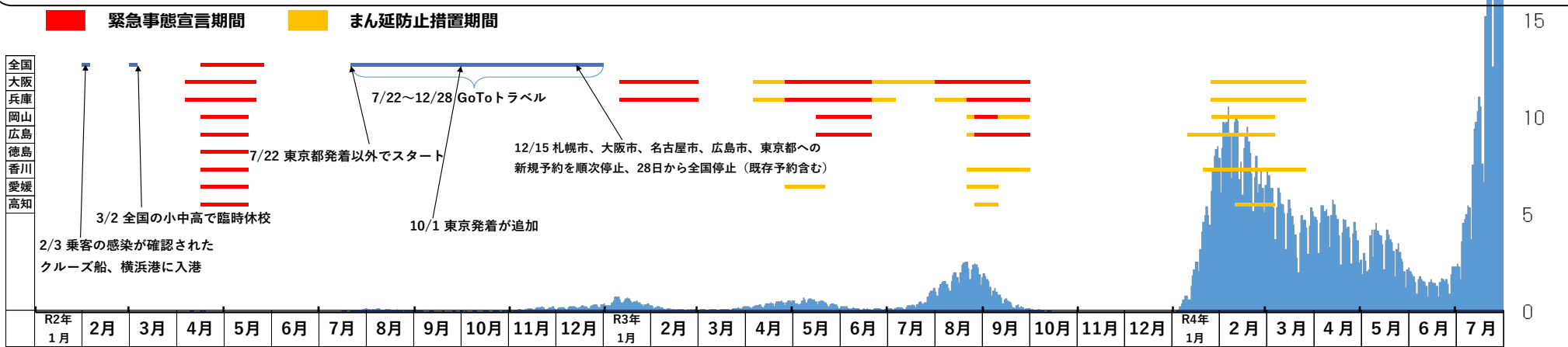
本四間交通量の月変動【県境3橋計】

- 本四間交通量は、R1年度まで**増加傾向** R2年度は**新型コロナウイルスの影響**により**大幅減**。
- R3年度は、緊急事態宣言の発出・解除、まん延防止等重点措置に伴い**増減を繰り返した**後、まん延防止等重点措置が終了したR4年4月以降は**大幅増**。



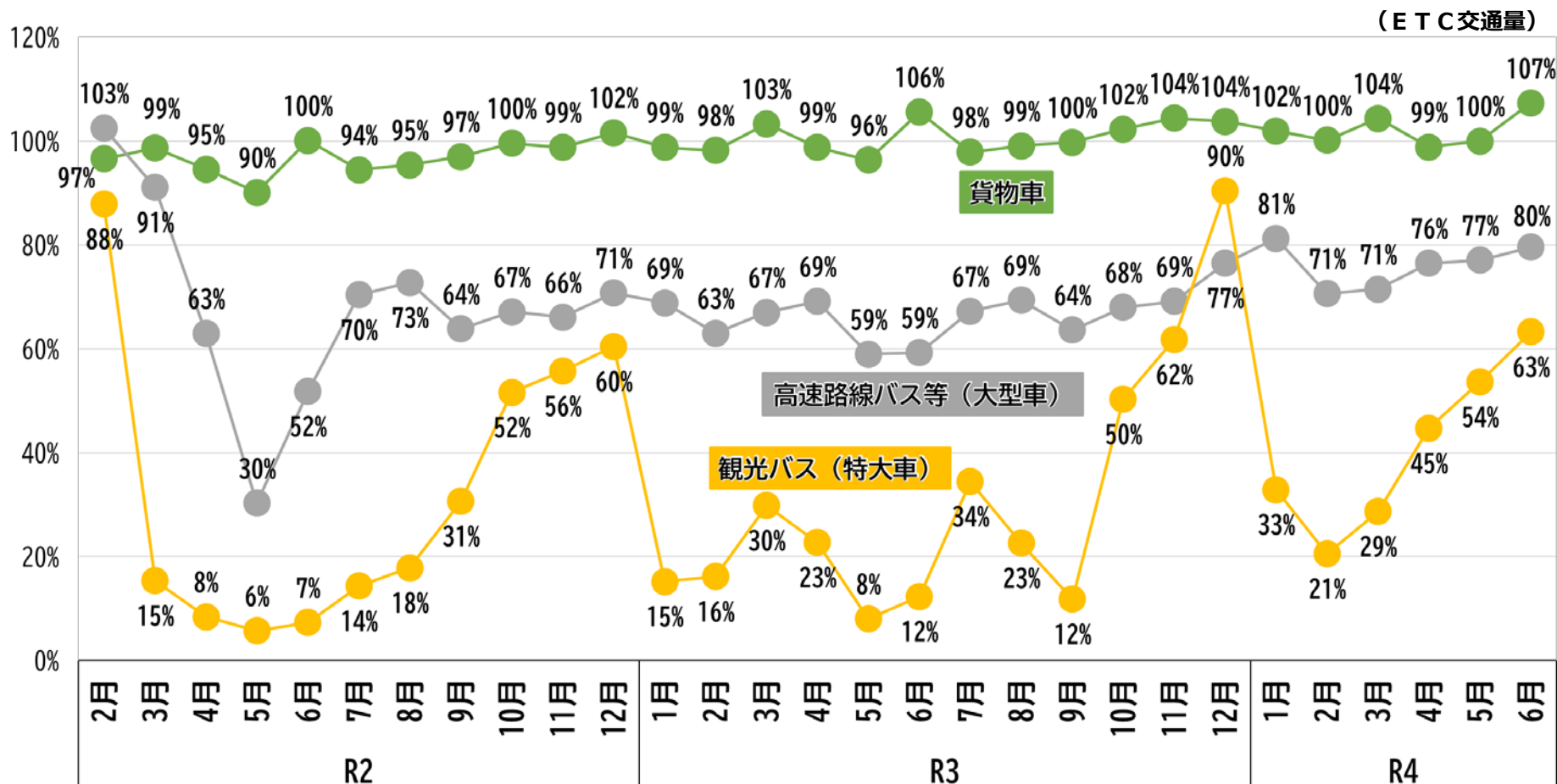
新型コロナウイルス感染症による交通量への影響

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響によりR2年度の**出口交通量**は前年同期比82%、R3年度はR1年同期比87%。
- 小型交通量**は、R2年4月～5月の**緊急事態宣言の影響**で、4月、5月は対前年比でそれぞれ**53%、45%**まで**低下**。
R2年6月以降は回復傾向となり、9月以降は横ばいとなっていたが、**R2年12月以降の感染再拡大**及び
R3年4月の**緊急事態宣言の影響**により、**年末年始、GW及びお盆**において**減少**。
- 大型交通量**は、R2年5月には**82%**となっていたが、その後は**90%以上**で推移。



新型コロナウイルス感染症の影響【大型車の車種別交通量への影響】

- 貨物車の減少は1割以下であり、R2年10月以降は昨年とほぼ同等の水準。
- 観光バスは、R2年3月以降団体旅行客の減少に伴い、交通量が大幅に減少。
R2年8月以降は回復傾向にあったが、再度の緊急事態宣言によりR3年1月は大幅な減少。
その後、R3年9月30日の緊急事態宣言解除に伴い回復傾向となったが、オミクロン株の感染拡大から再び大幅な減少。
- 高速路線バスは、R2年4月からの緊急事態宣言解除後の7月以降回復傾向にあるが、R1年の水準には達していない。

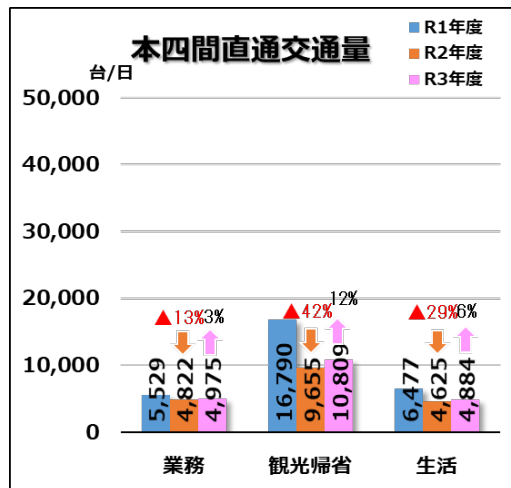
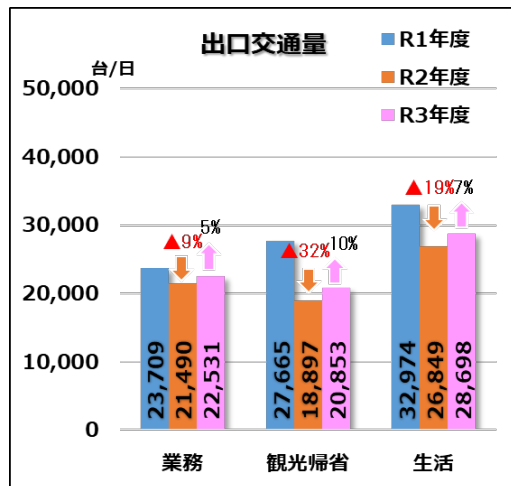


大型車の車種別交通量 (対R1年比)

新型コロナウイルス感染症の影響【小型車の目的別交通量への影響（全体・路線別）】

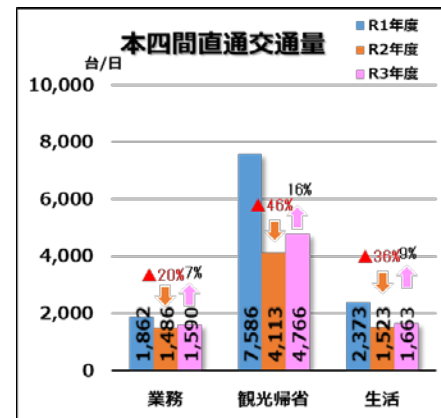
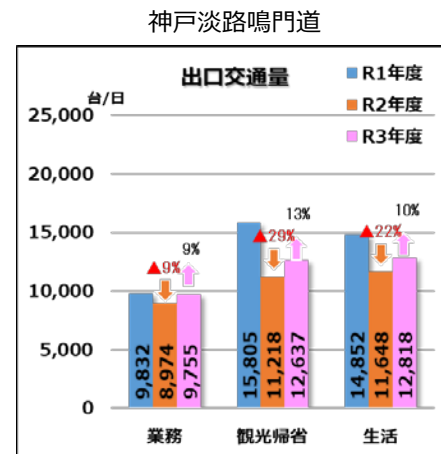
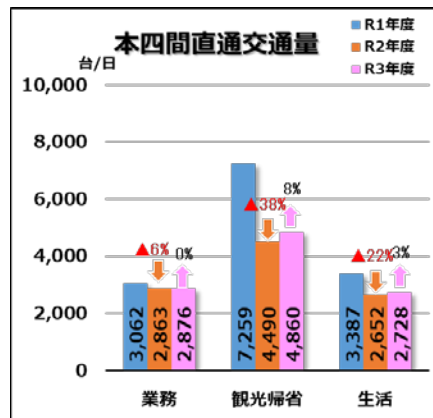
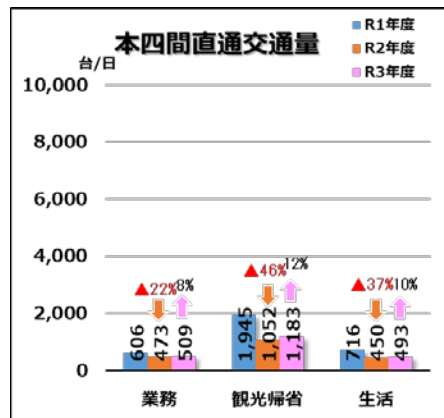
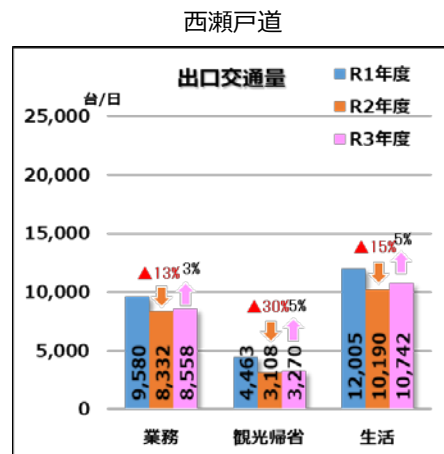
- 緊急事態宣言や帰省の自粛要請を受け、全体及び各路線とも観光帰省利用を中心に交通量が大きく減少。
- 本州四国間を利用する長トリップ（本四間直通）の観光帰省利用は、各ルートともに40～50%減少している。
- R3年度の交通量は、特に神戸淡路鳴門道の観光帰省利用について出口及び本四間直通の回復割合が大きい。

利用台数の変化（全体）



注）R1年度、R2年度及びR3年度のE T C交通量で比較

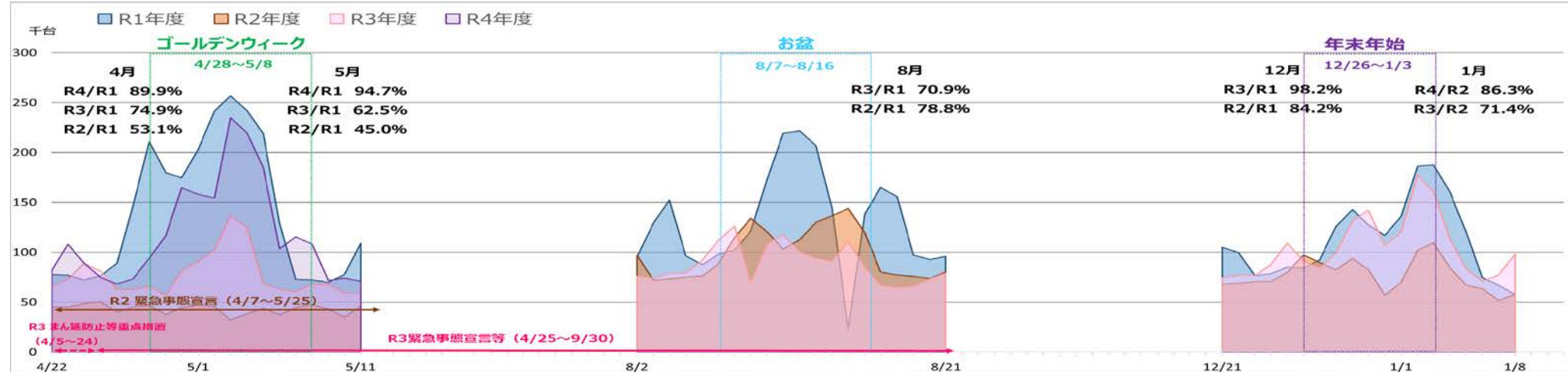
利用台数の変化（路線別）



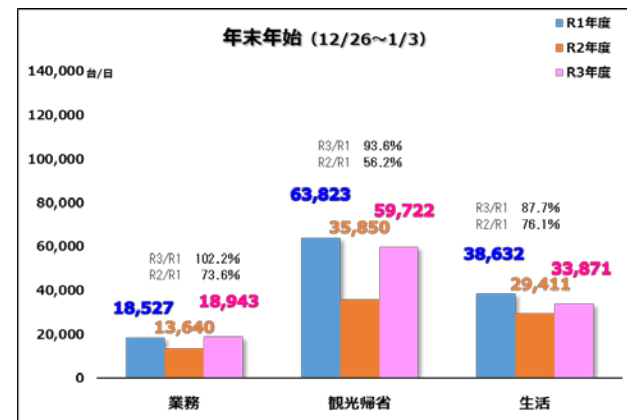
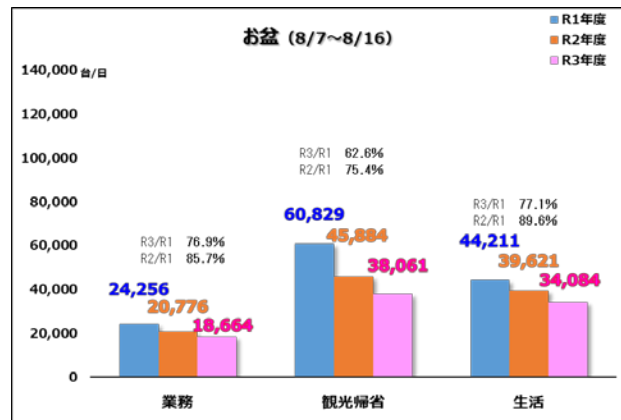
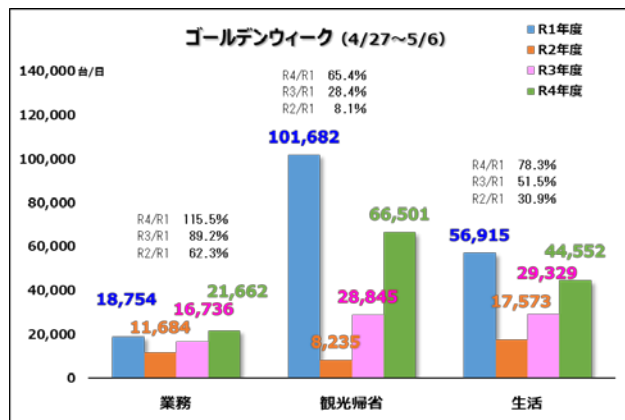
※「業務」、「生活」、「観光・帰省等」の3つの利用形態は、車載器情報による利用車種分類やETCデータによる利用区間、利用頻度などをもとに分類している。

新型コロナウイルス感染症の影響【小型車の繁忙期における交通量への影響】

- ゴールデンウィークの小型車交通量は、R2年、R3年ともに緊急事態宣言を受け、観光帰省を中心に大きく減少したが、R4年は行動制限解除により、観光帰省はR3年比で約2.3倍の伸びを示したものの、R1年比では約7割程度に留まっている。
- お盆時期は、R2年はG o T o トラベルの実施中であつたが帰省自粛、R3年は緊急事態宣言中・帰省自粛の影響もあり、交通量が減少。
- 年末年始はコロナ感染者の拡大を受けG o T o トラベルが停止されるなどにより、再び交通量が減少。R3年にはR1年とほぼ同水準まで回復。



小型車の交通量の推移（繁忙期）



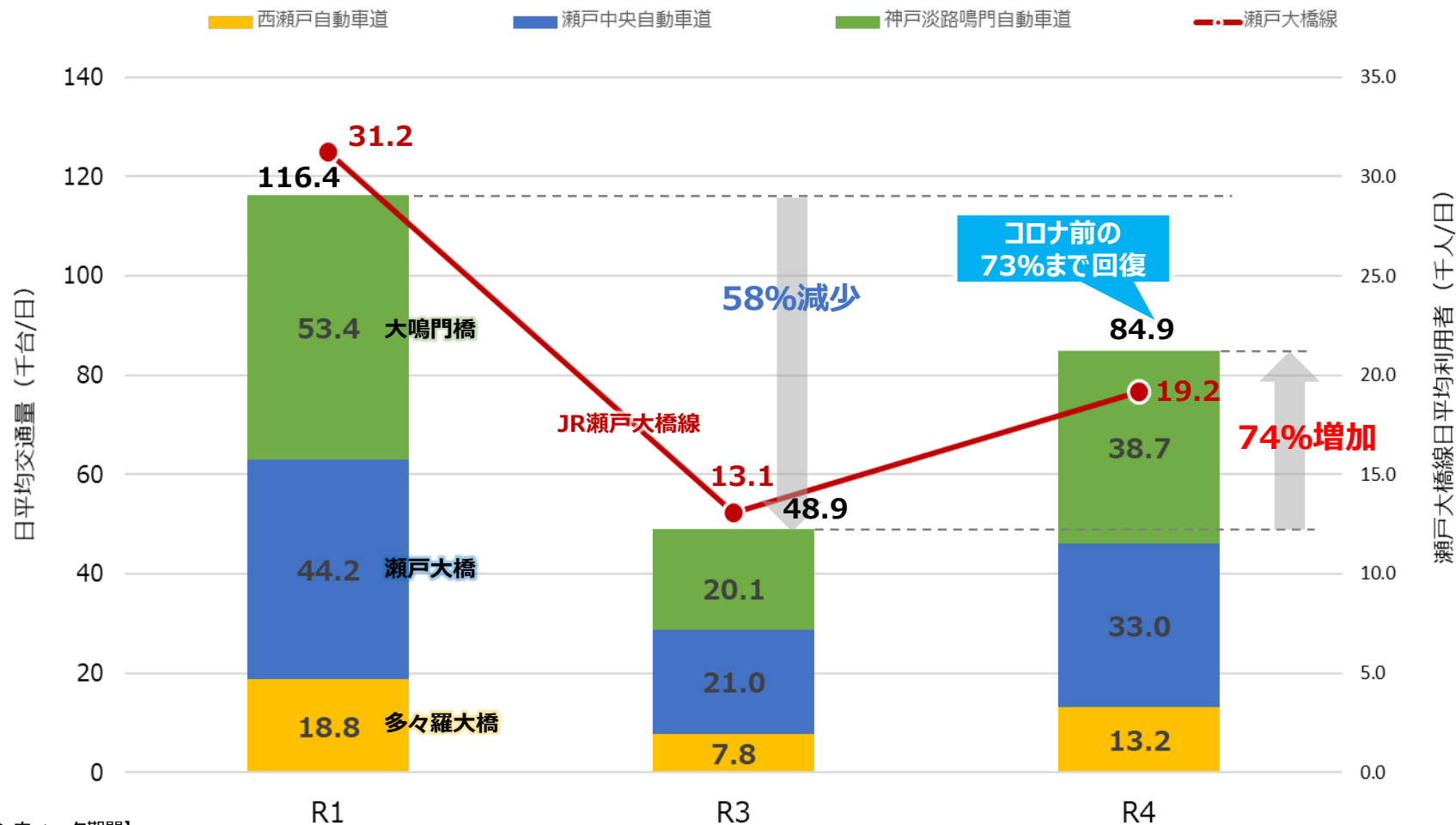
小型車の目的別交通量比（繁忙期）

※「業務」、「生活」、「観光・帰省等」の3つの利用形態は、車載器情報による利用車種分類やETCデータによる利用区間、利用頻度などをもとに分類している。

ゴールデンウィーク期間における四国地域への本四3橋交通量とJR瀬戸大橋線輸送人員

○期間の日平均交通量を比較すると、R4年は行動制限の解除により、R3年に比べ大きく増加したものの、コロナ禍前のR1年に比べると7割程度まで回復している。

◆本四交通量（県境3橋計）とJR瀬戸大橋線の実績の推移



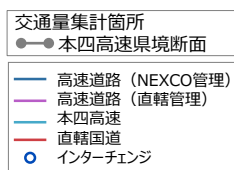
【ゴールデンウィーク期間】
R1 : H31年4月26日(金)～R1年5月6日(月):11日間
R3 : R3年4月28日(水)～R3年5月5日(水):8日間
R4 : R4年4月28日(木)～R4年5月8日(日):11日間

出典) 交通量/本州四国連絡高速道路株式会社
瀬戸大橋線利用車数/JR四国

ゴールデンウィーク期間における本四高速の交通量の変化（県境断面）

本四高速の期間平均日交通量の年別比較〈総交通量と小型車〉

- 期間平均の日交通量を比較すると、**R4年は行動制限の解除**により、R3年に比べ**大きく増加**したものの、**コロナ禍前のR1年に比べると7割程度まで回復**している。
- **小型車**は、総交通量と比較してR3年比の**増加率が大きく**、交通量の回復を牽引している。

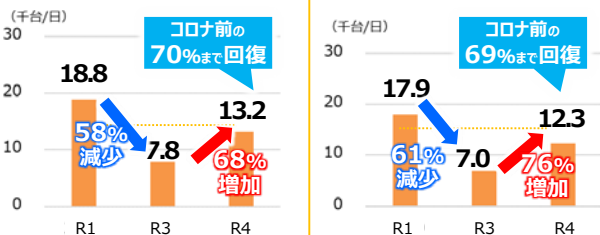


【ゴールデンウィーク期間】
R1：H31年4月26日（金）～R1年5月6日（月）：11日間
R3：R3年4月28日（水）～R3年5月5日（水）：8日間
R4：R4年4月28日（木）～R4年5月8日（日）：11日間
出典）交通量/本州四国連絡高速道路株式会社

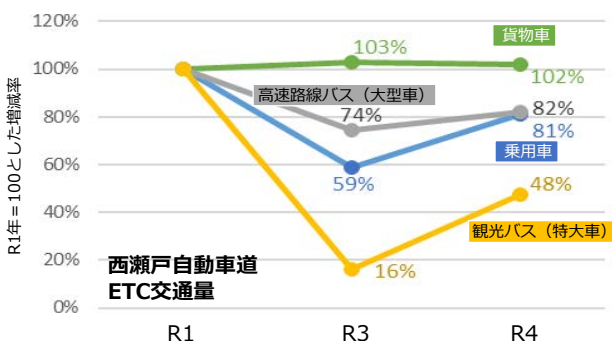
E76 多々羅大橋（生口島南～大三島）

〈総交通量〉

〈小型車〉



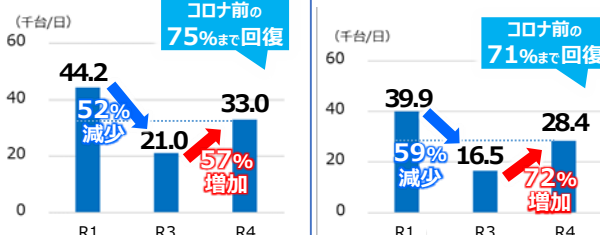
〈R1年=100とした増減率〉



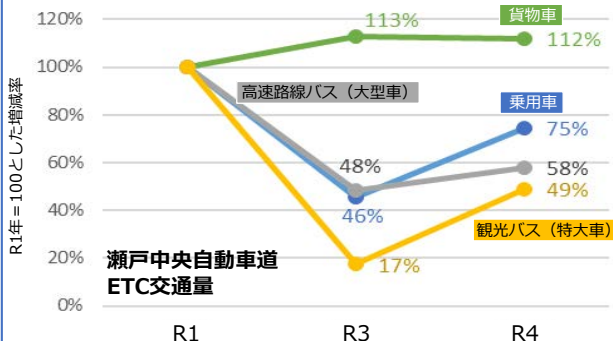
E30 瀬戸大橋（児島～櫃石島）

〈総交通量〉

〈小型車〉



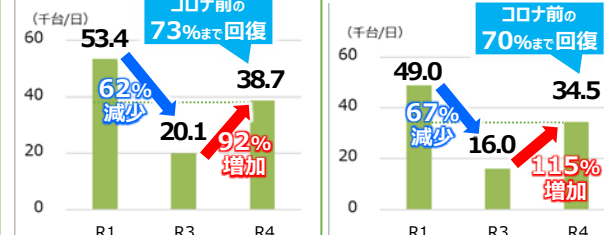
〈R1年=100とした増減率〉



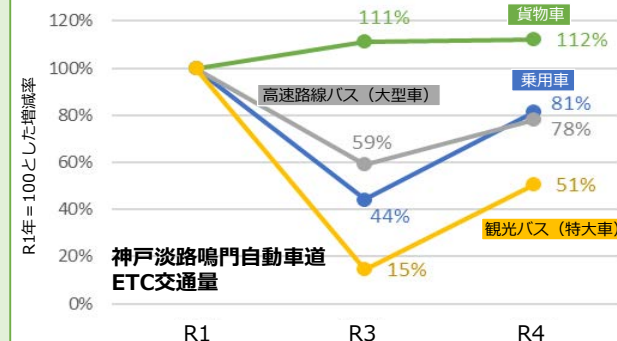
E28 大鳴門橋（淡路島南～鳴門北）

〈総交通量〉

〈小型車〉



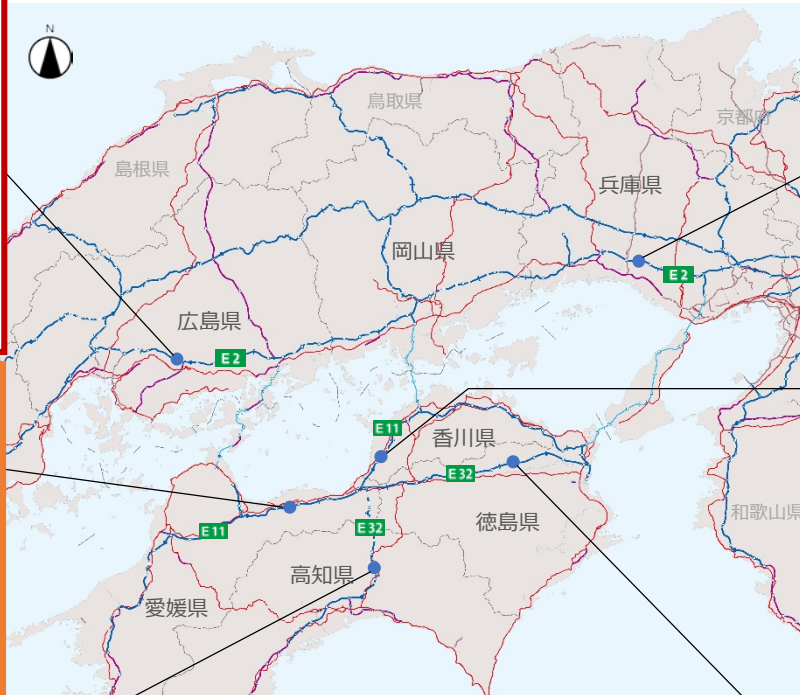
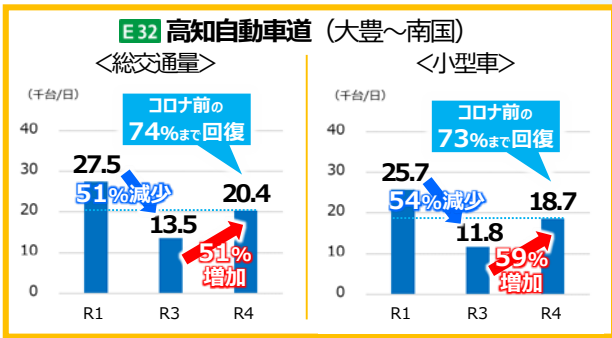
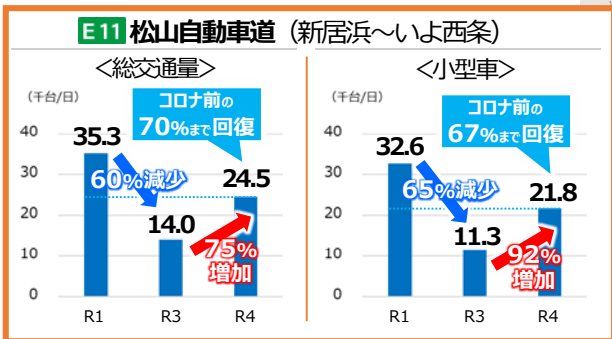
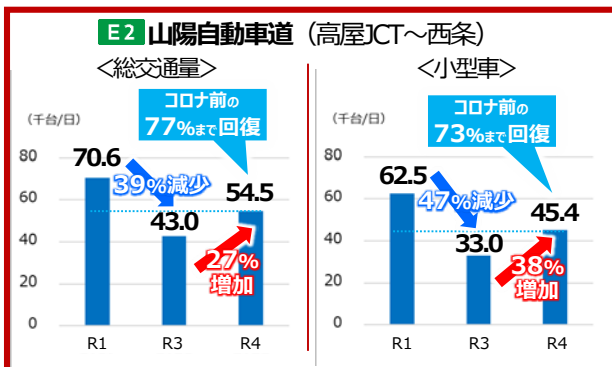
〈R1年=100とした増減率〉



ゴールデンウィーク期間における環瀬戸エリア内高速道路の交通量の変化

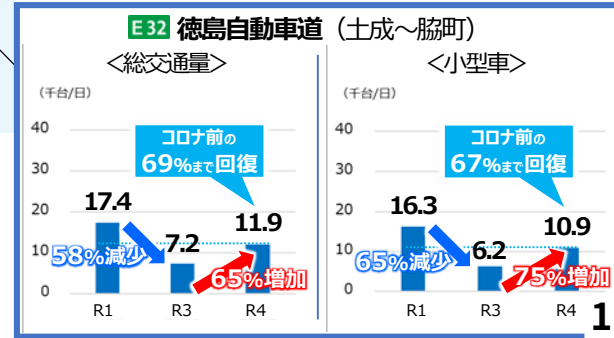
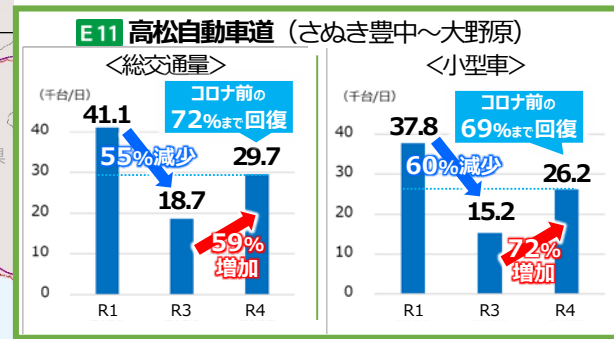
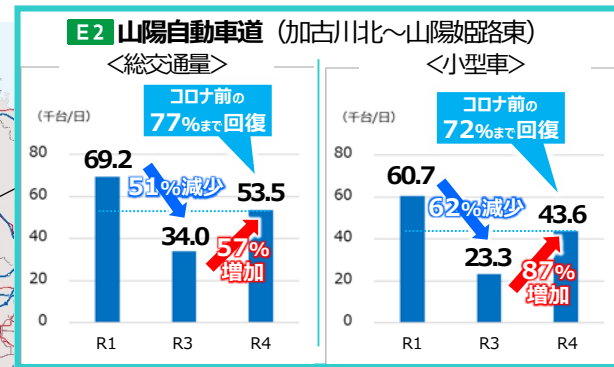
環瀬戸エリア内高速道路の期間平均日交通量の年別比較 <総交通量と小型車>

- 期間平均の日交通量を比較すると、**R4年は行動制限の解除**により、R3年に比べ**大きく増加**したものの、**コロナ禍前のR1年に比べると7割程度まで回復**している。
- **小型車**は、総交通量と比較してR3年比の**増加率が大きく**、交通量の回復を牽引している。



【ゴールデンウィーク期間】
R1: H31年4月26日(金)～R1年5月6日(月):11日間
R3: R3年4月28日(水)～R3年5月5日(水):8日間
R4: R4年4月28日(木)～R4年5月8日(日):11日間

出典) 交通量/西日本高速道路株式会社

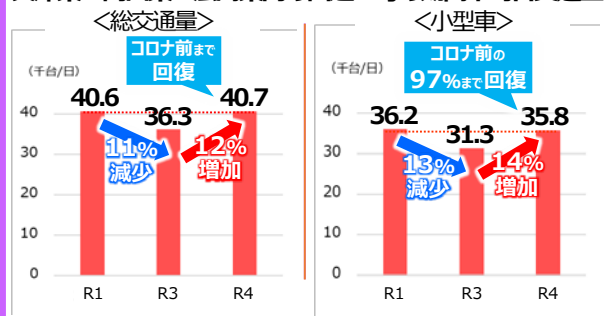


ゴールデンウィーク期間における環瀬戸エリア内直轄国道の交通量の変化

環瀬戸エリア内直轄国道の期間平均日交通量の年別比較＜総交通量と小型車＞

- 期間平均の日交通量を比較すると、R4年は行動制限の解除により、R3年に比べ大きく増加し、ほぼコロナ禍前のR1年レベルまで回復している。

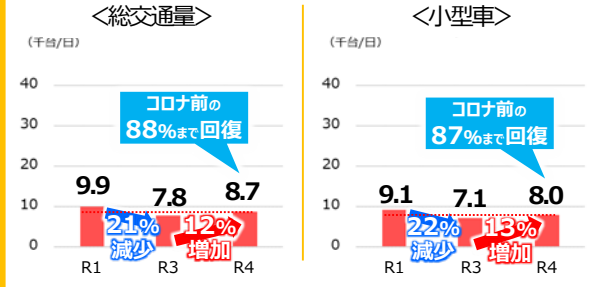
兵庫県・岡山県・広島県内の国道2号の期間平均日交通量



愛媛県内直轄国道の期間平均日交通量



高知県内直轄国道の期間平均日交通量



(注) 交通量は、環瀬戸エリアの国道2号（兵庫県:6, 岡山県:6, 広島県:9）と四国管内（徳島県:9, 香川県:6, 愛媛県:13, 高知県:10）に設置された直轄簡易トラカンの計測値（データ欠測箇所を除く）の集計対象ごとの平均値

【ゴールデンウィーク期間】

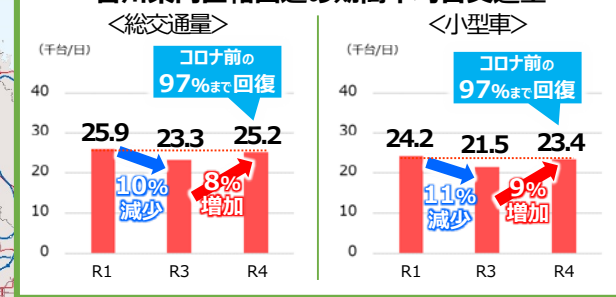
R1: H31年4月26日(金)～R1年5月6日(月):11日間

R3: R3年4月28日(水)～R3年5月5日(水):8日間

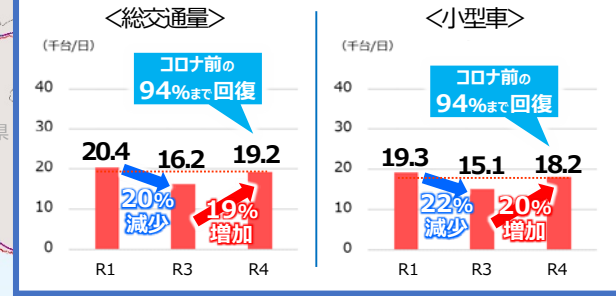
R4: R4年4月28日(木)～R4年5月8日(日):11日間

出典) 交通量/国土交通省

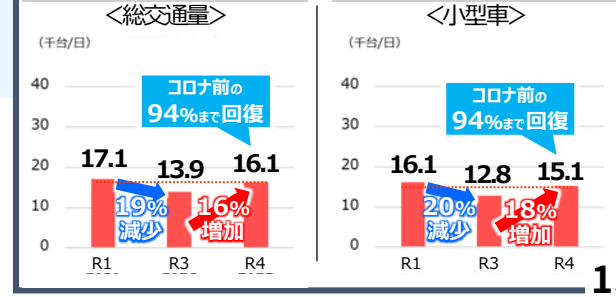
香川県内直轄国道の期間平均日交通量



徳島県内直轄国道の期間平均日交通量



四国内直轄国道の期間平均日交通量



ETCデータによる交通流動分析

ゴールデンウィーク期間における交流状況の変化

- R3年の四国に流入する観光交通の日平均流入台数は、緊急事態宣言等の行動制限により全国的に減少し、R1年比 約35% (約2万台/日減)。
- R4年は全国的に見るとR1年比 約69% (約1万台/日減) であるが、行動制限の解除により、近隣エリアの中国・近畿地方を中心にR1年比 72%～79%まで回復している。

四国に流入した日平均車両台数
対象車両：普通車+軽自動車
対象年月：R1、R3、R4
対象期間：ゴールデンウィーク
車籍地を出発地とする

【ゴールデンウィーク期間】
R1：H31年4月26日(金)～R1年5月6日(月):11日間
R3：R3年4月28日(水)～R3年5月5日(水)：8日間
R4：R4年4月28日(木)～R4年5月8日(日)：11日間

県名	日平均 流入台数 R1年	R3年			R4年		
		日平均 流入台数	増減台数 対R1年	R1年比	日平均 流入台数	増減台数 対R1年	R1年比
兵庫県	6,085	2,306	-3,779	38%	4,799	-1,286	79%
大阪府	5,544	1,677	-3,867	30%	3,964	-1,579	72%
岡山県	4,621	2,003	-2,618	43%	3,588	-1,033	78%
広島県	3,423	1,596	-1,827	47%	2,604	-818	76%
全国	32,408	11,396	-21,012	35%	22,509	-9,900	69%

R1年ゴールデンウィーク



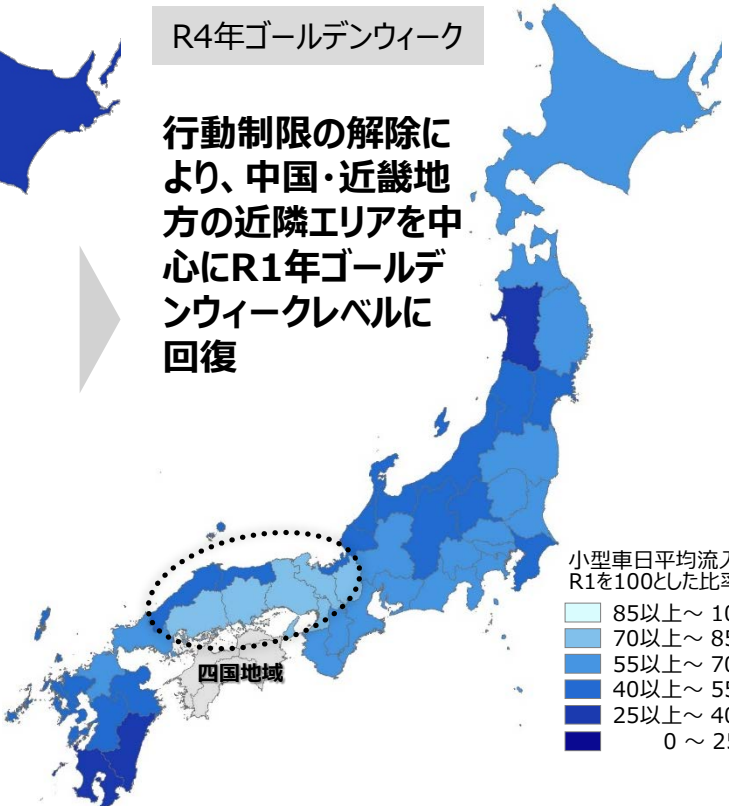
R3年ゴールデンウィーク

緊急事態宣言等の
行動制限により
全国からの流入車
両が減少



R4年ゴールデンウィーク

行動制限の解除に
より、中国・近畿地
方の近隣エリアを中
心にR1年ゴールデ
ンウィークレベルに
回復



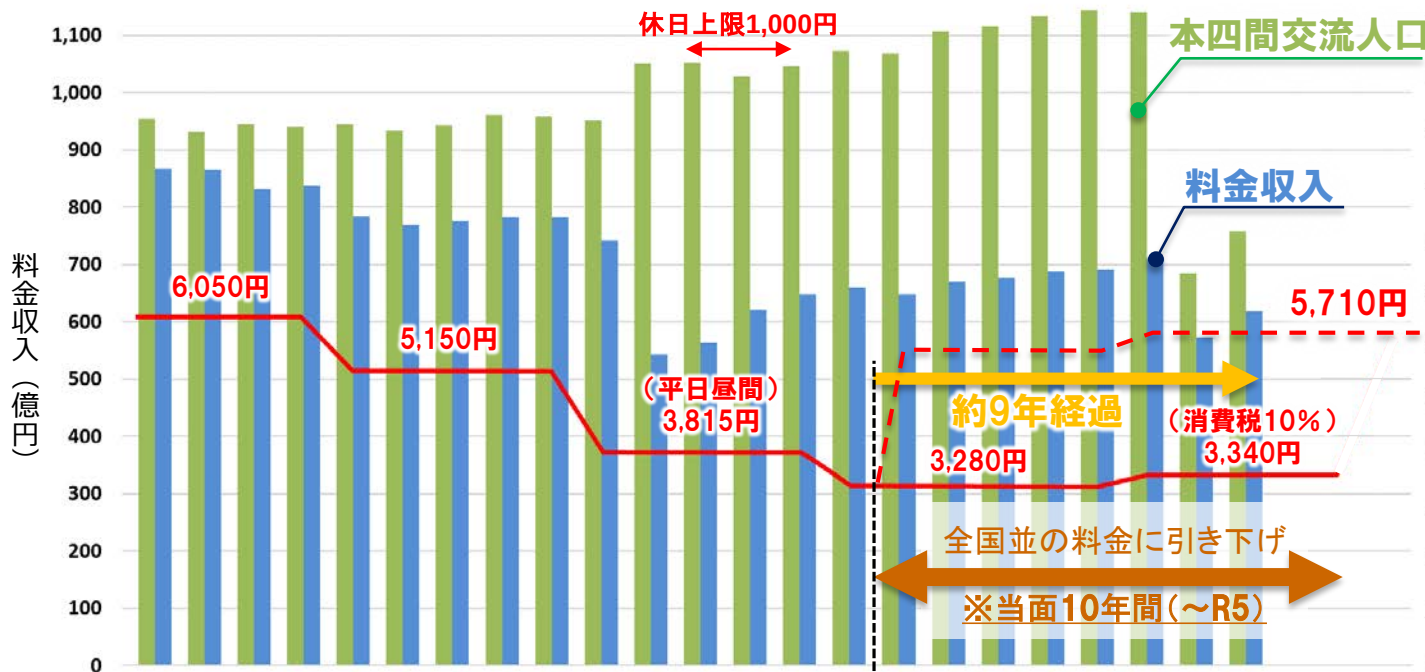
小型車日平均流入台数
R1を100とした比率 (%)

- 85以上～ 100
- 70以上～ 85未満
- 55以上～ 70未満
- 40以上～ 55未満
- 25以上～ 40未満
- 0 ～ 25未満

本四高速の料金について

○本四料金は、H26.4に**全国共通料金**となった

○これは当面**10年間（～R5）**までの措置となっており、来年度（R5）が時限措置期限



交流人口 (万人)

時限措置のない
場合の料金額

凡例	
本四間交流人口	
料金収入	
通行料金 (神戸西IC～鳴門IC間)	

神戸西IC～鳴門IC間の普通車(ETC利用)の通行料金例

注：R3年度の交流人口は、推計速報値であり、今後公表されるデータを用いて更新する（R4.5時点）